

## 十二のテーゼ

〈テーゼ 一〉考える姿勢について  
群集から隔離された洞窟で、

壁に向って座り外界を透視すること

〈テーゼ 二〉思索について

存在の病である意識をもって、

その病根を追求し、かつ存在と対決すること

〈テーゼ 三〉存在について

科白のない白痴で美しい女の

自然な調和に対立すること

〈テーゼ 四〉空間について

占拠思想も実は幾種類の宇宙のたぶつき

その中での彷徨

〈テーゼ 五〉時間について

破局が同時に調和。流れの先に破局があり、

その瞬間、円環的時間全体のイメージの完成であり、

未来も過去と同じ

〈テーゼ 六〉論理について

アラビア数字の暴力による自分の志の屈服、

より確実な誤解なき世界への願望。

自分から出発し、自分でしかない自分を媒介とし、

やっぱり自分に帰る思索のサイクル

〈テーゼ 七〉倫理について

論理の涅槃、つまり無関心

〈テーゼ 八〉美学について

正常論理の挫折から、その美しき影の

表現価値

〈テーゼ 九〉世界観について

なぜに自分が生まれ、そしてなぜに自分が生かされているか。

屈辱の世界へ血の復讐を開始せよ

〈テーゼ 十〉日本について

隠れて愛し恥ずかしき近親相姦

〈テーゼ 十一〉権力について

私は父と母に、否まず先に私に銃を向けねばならない

〈テーゼ 十二〉愛について

憎悪の幻想的に歪曲された星、

あるいは遠人愛